

皆さま、新しい年を迎えていかがお過ごしでしょうか。今年はネズミ年。私たち米農家にとってネズミは迷惑な存在ですが、ネズミの繁殖力だけは見習いたいところです(笑)。本年もどうぞよろしくお願いたします。

先月号でお知らせした通り、耕太一家は12月中旬から約1ヶ月間、ドイツに行ってきました。子供たちを連れての初海外。今月はドイツ旅行の報告とさせていただきます。

そもそも今回ドイツに行くことになったのは、えりに仕事が入ったから。「環境分野インターン制度」という若者を対象とした制度について、成果や実態を調査するお仕事でした。インターンを受け入れている有機農家も訪ねることができ、仕事ではありましたが、個人的にもいろいろと参考になりました。私が仕事をしていた間、朝から晩まで一人で子供たちの相手をしていたのは耕太。「これからも少しエリに優しくなれそう」ですって!このセリフを聞いたことが、一番の成果だったかもしれません(笑)。

さて仕事が終わればあとはフリー。ちょうどクリスマスで、どこもきれいに飾りつけられていました。ドイツのクリスマスは、ちょうど日本のお正月みたい。イブにはツリーを囲んで家族が集い、プレゼント交換の後にちょっと特別なおごちそう。25日は教会に行き、またおごちそう。26日は親戚が集まっていました。お正月の3ヶ日みたいですよ。それに比べてお正月はあっさりとしたもの。友人とパーティーで過ごす人が多く、元日は休みですが、翌2日から普通に仕事が始まります。私たちの留学時代のルームメイトが「お城に住んでいる!」というので、私たちはそこで新年を迎えることにしました。300年前に建てられた宮殿の一画が彼らの住居。薪で煮炊きのできる調理台が部屋全体を暖めていました。新年のカウントダウンには、グラスを片手に村中が外に集合し、おめでとう!と花火が飛び交います。中世のお城から見る花火はなんともロマンチックで、2008年はなかなかの幕開けでした。



南ドイツのバイエルン州でクリスマスやお正月を過ごした後、エリの生まれ故郷であるフランクフルト近郊のオッフエンバッハという町に行きました。産院で母親同士が仲良くなったベンツェさん一家。息子さんのアンドレアスは、私にとって一番古いお友達なのです。その彼にも6歳になる娘がいて、桔平や連蔵のよい遊び相手でした。生まれてすぐから知っているアンドレアスの子とうちの子たちが遊んでいる姿を見るのはなんだか感慨深いものがありました。



そして今回はボンまで足を伸ばしました。私たちが住んでいる築130年の家には、戦後すぐにドイツ人女性が住んでいたことがありました。この家の長男だった方がベルリンで結婚したヨハナさん。終戦間際にシベリア鉄道で日本にやってきて、この地に数年住んでいましたが、残念ながら早くに亡くなってしまいました。こんな田舎にドイツ人がいたのですから、トウゼン有名人。隣で育った耕太のお父さんも、「ハナ子さん」がパンやケーキを焼いてくれたのを覚えているそうです。空き家となっていたこの家に私たちが住むことになったのが5年前。残っていた荷物の片付けから始めたのですが、その時にドイツ語で書かれた手紙やアルバムを見つけました。仕事でドイツを訪れたときに、それらを頼りに雲をもつかむ思いで親戚探しをした所、奇跡的に見つかったのがヨハナさんの甥にあたるヨーク。彼が住んでいるのがボンなのです。その後、彼の娘ウテが日本を訪れ、一緒にお墓参りをしてくれました。私たち夫婦に子宝ができたのがその直後。なん

となく、ヨハナさんが私たちにご褒美をくれたような、そんな気がしていたのでした。こんどはそのウテが出産間近！ということで大きなお腹を見に行くつもりだったのですが、向かっている最中にヨークから「夜中から陣痛が始まって病院にいつている」とのこと。そんな時に行くのはどうかと迷いましたが、是非に、という言葉に甘えて、そのままお邪魔することに。家で再会を喜びながらも皆どこことなくソワソワ。待ちに待った連絡が入ったのは夜10時を過ぎてから。3600gの元気な赤ちゃん、フリードリヒの誕生です。さっそく翌日、ヨーク夫妻と一緒に赤ちゃんを見に病院を訪れました。3日間しかいなかったのに、予定より2週間も早く、すごいタイミングで生まれてくれたフリードリヒと対面することができ、感動的でした。



それにしてもドイツは、こんなに寒かったっけ！？と思うほど。子供たちにはエスキモーのようなスキーウェアを着せ、自分たちも何枚も重ね着をして外に出ます。私たちにとっては留学中にできた友人に子供たちを紹介できる楽しい旅となりました。桔平&連蔵は2歳にもなっていないので記憶には残らないかもしれませんが、「雪」を覚え、「チョコレート」を覚え、「ドイツ語」もたくさん覚え、大きく成長する旅となりました。

さて日本に帰ってきてまず感動したのは、ごはんのおいしさ(笑)。手前味噌というか、めでたいというか。和食って本当においしいですね。そして暖かい！ドイツの寒さに比べれば、阿蘇の寒さなんてかわいいものです。まだ帰国して数日しかたっていませんが、今回の旅は「ああ、日本っていいなあ」とも改めて感じました。もちろんドイツは風景も美しいし、友人と会えたのは楽しかったのですが、食材の豊かさと温泉！日本は最高です。子供たちが2歳を過ぎると航空運賃がかかるので、海外旅行にはしばらく行けなくなりそうですが、次からは国内をもっと堪能したいと思います。こんな風に旅に出られるのも、留守の間に牛や愛犬の世話をしてくれる励志叔父の存在があってこそ。O2ファームは今年も力を合わせておいしいお米作りに励みます。どうぞ本年もよろしくお願ひいたします！

